

事業名：学校を中心とした食育推進事業

学校名：東広島市立高屋中学校

所在地：東広島市高屋町中島760番地

H P : www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~takaya-chu

対象：21学級 725名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

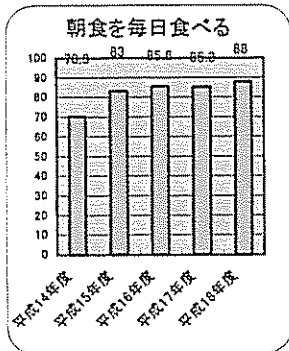
主体的に学び考えそして生活の中で実践していく生徒の育成
～教科等における食に関する指導の工夫を通して～

②研究のねらい

本校では、「朝食欠食が多い」という生徒の実態を改善するため、平成14年度から食に関する指導に取り組んできた。

I期(平成14年度)は、課題の把握、II期(平成15,16年度)は、「朝食欠食の生徒の割合の減少」に視点をあてた取り組みを行ってきた。

III期(平成17年度～)は、「学校を中心とした食育推進事業」「元気を育む食育推進事業」の実践中心校として、「食」を切り口に、学ぶ意欲や生活習慣の確立、学力の向上を目指して学校全体で「食」にかかわる取り組みを行うことにした。



研究主題設定の理由

○社会状況から

・子どもの頃からの望ましい食習慣の確立がきわめて重要な社会的課題である。(食育推進基本計画)

○本校の実態から

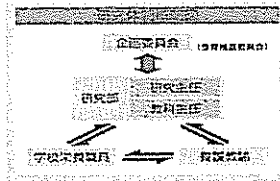
・朝食喫食率は増加し、ほぼ定着していると考えられる。しかし、自らの食生活を改善する意欲が高まるまでには至っていない。
・夜型生活の習慣化による生活リズムの乱れが心配される。

研究仮説

「食」を切り口として、自らを見つめ、自らの考えを深めさせる場面や環境を設定するなど、指導方法の工夫をすれば、主体的に考え、自らの生活をよりよく改善しようとする態度が育つであろう。

(2) 研究組織・体制

研究部と学校栄養員、養護教諭が連携しながら計画立案し、企画委員会で調整を図り、学校全体で取り組んでいく。



(3) 研究内容

①食に関する指導の推進

- ・全教科、領域における食に関する指導の実施
- ・養護教諭、学校栄養職員との連携、TTによる授業

②望ましい食習慣の形成

・3年間を見通した、系統的・効果的な「食」に関する指導プログラムの作成

・給食指導、教科指導を通じた意識の高揚

③栄養教諭の職務内容の研究

- ・学校栄養職員の参画による授業づくり、TTによる授業
- ・連携・調整による教科指導の取組み

④保護者啓発と情報発信

- ・学活参観、PTA講演会等の開催
- ・学校だより、学年だより、ホームページ等を活用した情報の積極的な発信

2 授業改善の視点

(1) 「食」に関する指導という視点で、年間指導計画を見直し、各教科の中に位置付ける。

(2) 各教科においては、教科のねらいを達成することを前提に、「食」を切り口とした授業づくりを進める。

(3) 学校栄養職員や養護教諭との連携や協働による授業づくりを進める。

3 研究の成果と課題等

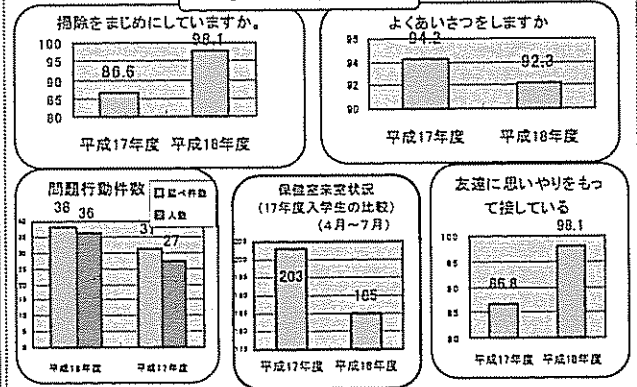
(1) 成果

- ・生徒の「食」に対する意識が高まり、自分から行動する傾向が見られた。(望ましい食習慣と自己管理能力の向上)
- ・3年間を見通した「食に関する指導」のプログラムづくりができた。(「食」に関する指導体制の整備)
- ・学校栄養職員、養護教諭との連携や専門的指導により、生徒の「食」に対する興味・関心を引き出し、より理解を深めることができた。また、他教科との関連、広がりを持たせることができた。
- ・食に関する指導を通して、学校と地域・保護者との連携を進めることができた。

学力の推移

	基礎・基本定着状況調査 ()内は県平均		平成18年度NRT学力検査:2学年 ()内は市平均	
	平成17年度	平成18年度	国語	数学
国語	80.5(73.0)	84.6(82.1)	54.9(53.7)	
数学	79.2(70.5)	78.8(71.4)	55.1(53.4)	
英語	85.6(77.8)	84.4(76.3)	55.0(54.3)	

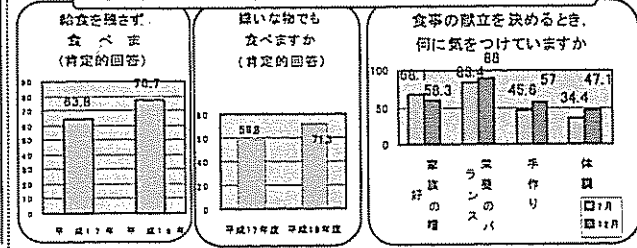
心の安定に係る意識の変容



(生徒)

食に関する意識の変容

(保護者)



(2) 課題

主体的に活動し、達成感の持てる授業づくり、心とからだを育む環境づくり等の継続的な取り組みが必要

- ・保護者・地域との連携、協力を継続
- ・各教科の「食」を取り入れた授業の充実
- ・研究、環境、推進組織の確立

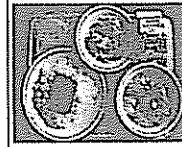
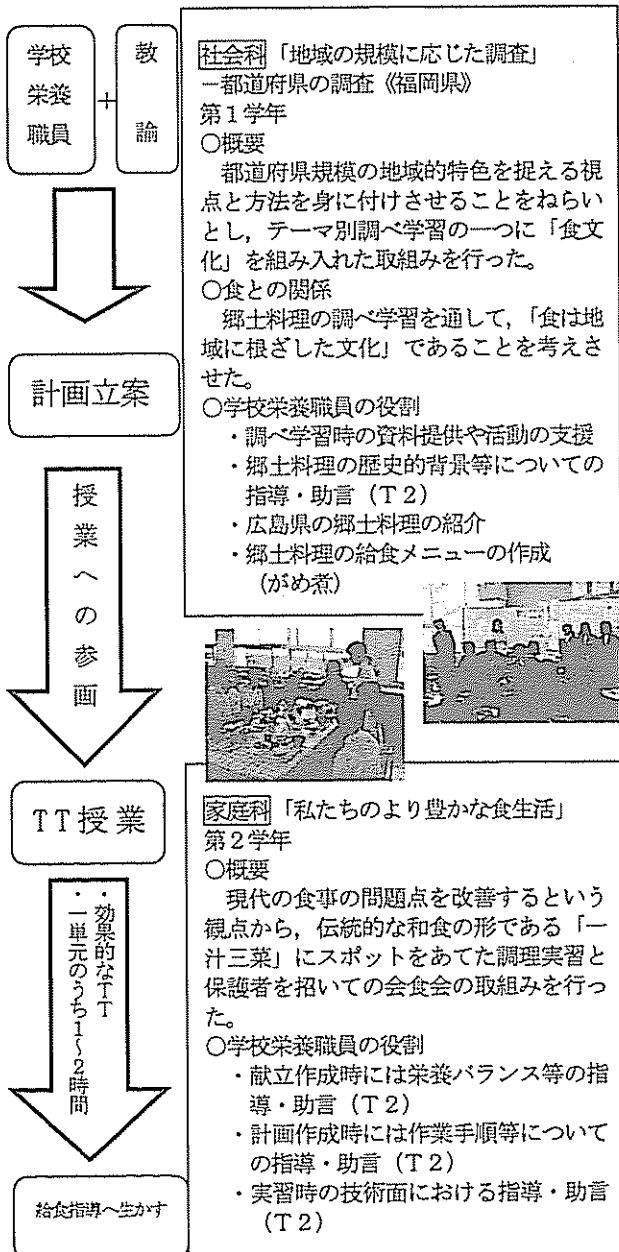
(3) 今後の改善の方策等

- ・マネジメントサイクルにのっとり研究推進をするために、生徒の生活調査等を通して実態把握に努め、課題を明確にして取り組む。
- ・各教科における、「食」に関する授業をより一層充実させるために、授業研究を計画的に行う。
- ・「食」に関する指導の定着や啓発を図るために、食育月間、食育週間等を設定した重点的な取り組みを保護者・地域と連携しながら進める。

4 実践事例

① 学校栄養職員とのTTIによる授業

- ・学校栄養職員の専門性を生かす。
- ・学習内容の理解を深める。
- ・生徒の関心意欲を高める。



保健「健康な生活と疾病の予防」

第3学年

○概要

より健康的な生活への意欲と実践力を向上させるため、生活習慣病の正しい理解とその予防について学習を進めた。

○食との関係

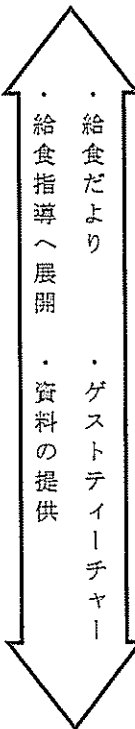
生活習慣病を予防する食生活のあり方を「給食メニューの作成」を通して考えさせた。

○学校栄養職員の役割

- ・単元全体の授業計画作成に参画
- ・メニュー作りのグループワーク時に栄養バランスの指導・助言（T2）

② 学校栄養職員との連携による授業

学校栄養職員



教諭

国語科「食感のオノマトペ」

第1学年

○概要

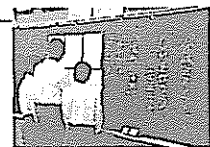
豊かな想像力を育み、ことばの大切さを実感させるねらいのもとに「食感のオノマトペ」（説明文）を読み、自分の考えや思いを話したり書いたりする一体的な活動に取り組んだ。

○食との関係

食べものに関するオノマトペのCMづくりを行うことにより、食に対するイメージを豊かな言葉で表現させた。

○学校栄養職員の役割

- ・「食べもの」「食文化」に関する資料を提供する。
- ・授業での取り組みを「給食だより」等で紹介し、食に対する意識を高める。



理科「食物の消化と吸収」

第2学年

○概要

実験や観察を通して消化や吸収の仕組みとその働きについて学習を進めた。

○食との関係

消化吸収のメカニズムの学習を通して「規則正しい食生活」について考えさせた。

○学校栄養職員の役割

- ・「食べ物の種類と消化・吸収」に関する資料の提供する。
- ・生活調査の結果（年2回実施）に基づき、教科担当と連携する。

